4月1日（土）

二宮尊徳記念館・歴史民俗資料館・市民活動支援センターがオープンします

日光市の歴史に大きく貢献した二宮尊徳（金次郎）を顕彰する「二宮尊徳記念館」と、市の多様な歴史や民俗を紹介する「歴史民俗資料館」、市民の社会貢献活動を支援する「市民活動支援センター」を、装い新たにオープンします。

●二宮尊徳記念館の背景

「二宮尊徳記念館」は、かつて尊徳が疲弊した日光の再興のために尽力した「報徳役所」の跡地に建てられました。ここには、昭和30（1955）年に小代出身の財界人である加藤武男邸の一部を移築し、尊徳の没後100年を記念した「報徳今市振興会館」が整備され、長らく人々に愛されてきました。

このたび、その精神を受け継ぎ、「報徳の教えの学習と実践によるまちづくり」をテーマに、市の歴史を学ぶ「歴史民俗資料館」と市民の自主的なまちづくりを支援する「市民活動支援センター」の3館の機能を有する複合施設として再生しました。

●施設の概要

約3、000㎡の敷地に建つのは、「二宮尊徳記念館」を中心とした、延べ床面積約2、000㎡、地下1階、地上3階の4層構造の建物で、地下は資料の収蔵庫、3階は機械室、1・2階が一般の方々が利用できるフロアとなっています。

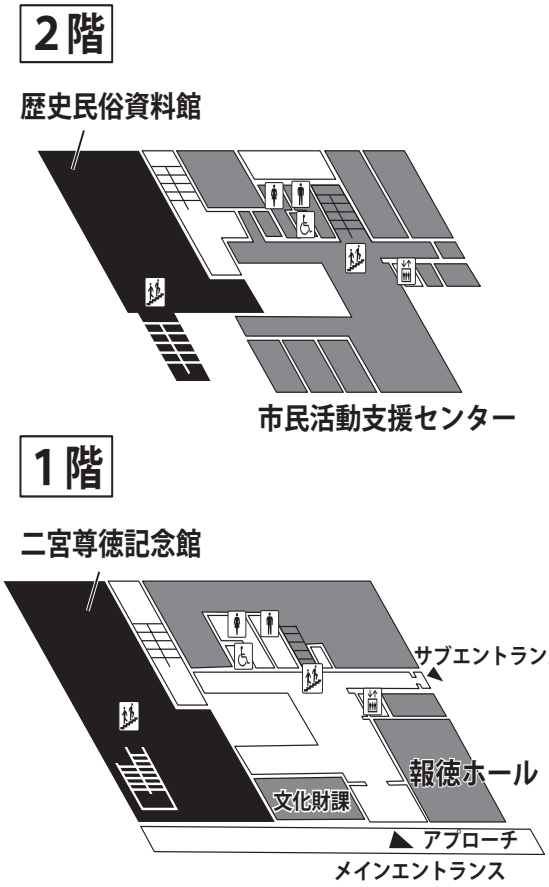
施設の正面玄関であるメインエントランスに至るアプローチには、報徳役所跡の記念碑や、報徳今市振興会館に設置されていた尊徳が日光の村々を視察している姿の「廻村像」、現存する唯一の報徳役所の建築物で市指定文化財建造物である「報徳役所書庫」が移築されています。

●二宮尊徳記念館

メインエントランスを通って左に曲がると、記念館の入口です。内部は大きく二つに分かれ、手前側は金次郎像をあしらった書棚を中心に、参考図書の閲覧などができるコーナーになっています。窓を大きく取った明るい室内からは、外庭の報徳役所書庫を見ることができます。

また、壁に設置されたタッチパネルのモニターは、尊徳関係の史跡や、その他の文化財、日光ブランドなどの観光情報を検索できるようになっています。

図：館内案内



二宮尊徳記念館へのアプローチ

奥の展示室には、各地で農村の復興を果たしてきた尊徳が、その集大成として日光で取り組んだ施策を史料や模型、映像で知ることができます。

尊徳は日光に赴任後、一年半で亡くなり、その復興を果たしたのは息子の弥太郎（やたろう）と門弟（もんてい）たちです。そして、尊徳の教えは関係者に受け継がれていきました。

展示最後のコーナーでは、尊徳を中心にどのような人々が関わってきたかを視覚的に検索することができ、その広がりを実感することができるでしょう。

●歴史民俗資料館

2階にある歴史民俗資料館へは、二宮尊徳記念館の金次郎像脇の階段からつながっています。資料館への入口には日光杉並木街道を模した展示が施されており、並木道を通って展示室に入ります。

金次郎像と2階へ続く階段

現在の日光市は、尊徳が復興を目指した当時の日光神領とほぼ重なります。その領主であった現在の二社一寺の基である「日光山」を軸として、古代から近世までの歴史を解説しています。

日光神領は近代以降変容し、一旦は5つの市町村に分離します。平成18年の市町村合併により再び一つの日光としてまとまるまでの間、変わらなく受け継がれてきた美しい自然と貴重な文化財が、外国人にも認められ、世界遺産やラムサール条約登録につながりました。資料館の展示物を通じ、日光市のこれらの歴史や姿を理解できることと思います。

資料館へ続く杉並木を模した通路

●市民活動支援センター

市民の皆さんが利用できるエリアとして、2階の会議室・交流スペースと、1階の報徳ホールを「市民活動支援センター」として整備しました。中庭と吹き抜けを介した明るいスペースで、快適な活動が行えます。

●歴史民俗資料館の休館と文化財課の移転について

新館準備のため、今市図書館隣にある現在の歴史民俗資料館は、3月から休館します。長年のご利用ありがとうございました。

また、第4庁舎2階の文化財課も、4月1日(土)から二宮尊徳記念館事務室に移転します。

●開館時間などのご案内

★二宮尊徳記念館・資料館
月曜日、祝日、年末年始期間を除く午前9時～午後6時（月曜日が祝日の場合は、翌日休館）

★市民活動支援センター
年末年始期間を除く午前9時～午後11時

★文化財課
土曜・日曜日、祝日、年末年始期間を除く午前8時30分～午後5時15分
※いずれの施設も利用は無料です

図：施設の位置

4月1日以降の連絡先は
二宮尊徳記念館・歴史民俗資料館
☎(25)7333
文化財課
☎(25)3200
市民活動支援センター
☎(22)2271
※〒321-1261　日光市今市304-1

この記事についてくわしくは
文化財課　文化財保護係
☎(30)1861